

関東 整備局

入札不調・不落多発の様相

関東地方整備局が発注する一般土木工事（3億円以上）で、入札不調・不落の件数が今後増えてきそうな様相を呈してきた。入札参加申請書の提出受付を先週締め切った一般土木工事2件が申請者ゼロに終わり、入札手続きの取りやめとなった。比較的規模の大きい一般土木工事では、昨年8月に発注公告された「前川排水施設新設工事」以来の手続き取りやめの事態。原因を早急につかみ、施工条件・環境の整備をはじめとする総合的な善後策を講じる必要性が高まっている。

近年、関東整備局所管 中心に参加申請がない、工事では小規模土木工事 あるいは落札決定まで至事、都市部で行うアスファルト舗装工事（電線共 頻発している。同溝工事含む）、河川維持工事、建築改修工事を 関東整備局は、手続きの遅延で国民生活に欠か

せない社会資本の整備に遅れが出ることを憂慮。受注者の施工しやすい条件を整える取り組みや、総合評価方式によって企業選定する際、不調・不落が多い工事工種の施工実績が過去にあれば加点評価する方法、実勢価格を予定価格に反映させる一見積提出を求める方

式」の試行などを展開中だ。

一般土木工事で新たに手続き取りやめとなったのは、昨年12月7日付で一般競争入札公告した開削施工の「三田共同溝（その3）工事」と、地下約50メートルの施工となる「外郭放水路第1・第3工区トンネル覆土工事」

の2件。前者が一般土木BまたはAランク業者を、後者が一般土木Bランク業者を対象とし、今月7日まで申請書の提出を受け付けていた。

工事規模と工期の兼ね合いから採算が合わなかったのか、資格要件に見合った監理技術者を手配できなかったのか、申請を

見送った受注者側の詳しい理由は今のところ分かっていない。

関東整備局は発注への再手続きの検討を既に始めた。受注者における工事の選別化が顕著となり、入札不調・不落が一般土木工事でも多く発生しそうな状況の中、設計書を今後作成する際には、受注者側の視点に立った施工しやすい環境を整える努力が求められる。

一般土木2件で申請者ゼロ

受注者側視点から環境整備を